

第1A(小)分科会 教育課程に関する課題

提案主題 学校教育目標・重点目標具現化のための教頭の役割

サブテーマ ～確かな学力の育成を通して～

協議の柱 確かな学力の育成を図るため、教職員の意識改革や保護者との協働を教頭としてどのように推進するか。

提言者 津久見市立津久見小学校 佐藤 廉

1 質 疑

- (1) Q 授業改善も進んだのでは。6年生の教科担任制については。
A 学力向上の本筋は授業改善。手始めとして指導法を持ち込んだ。
担任が授業交換して教科担任制を導入することで、教材研究の意識も高まった。
- (2) Q 日課表での「たちばなタイム」の時間設定は。保護者や子どもの反応は。
A 木曜日の6校時終了(15:15)後、全校下校の後15:30から全職員で行っている。
参加希望者が多く、肯定的にとらえている保護者・子どもが多い。
- (3) Q 児童による授業評価については。
A 自分の授業改善に役立てるという趣旨で、学期に2回実施している。
- (4) Q 職員数は。一人の子どもにこれだけ関わっている。
A 学級担任は12人。担任外が7人で、拠点校・体力向上・英語専科など本務校以外で勤務する職員もいる。人数的にはきつきつであるが全職員で指導をしている。

2 協 議

- (1) 子どものつまづきに合わせた教材選定をし全教職員で向き合う目的があるのがよい。
- (2) 職員の異動で大変であったがそれをチャンスととらえて取り組んだ結果ではないか。
- (3) 教職員の姿が保護者の理解・信頼関係構築につながり保護者の参画が高まっている。
- (4) 子どもの変容や生きる姿を中心に議論していくことが大切ではないか。

3 指導助言

- (1) 当たり前のことができなかつた厳しい現状の中で、学力向上に向けて熱意のこもった取組をされた。まず、組織を整備し、具体的な取組の中で教職員の意識改革を行い、成果を出すことで、さらに教職員の意識改革をしていった。
- (2) まず学校ごとの教育課題を明確にし、それに向けての目標管理をする。そこで、学校の教育課題に連動した分掌・学年・個人としての目標が位置づけられる。そうすれば個人の取組が学校の課題につながっていくので、一人一人が学校経営に参画しているという意識が高まる。
- (3) 学校の教育課題をPTAの目標と合わせることも、同じベクトルで保護者と連携して取り組んでいくことにつながる。